

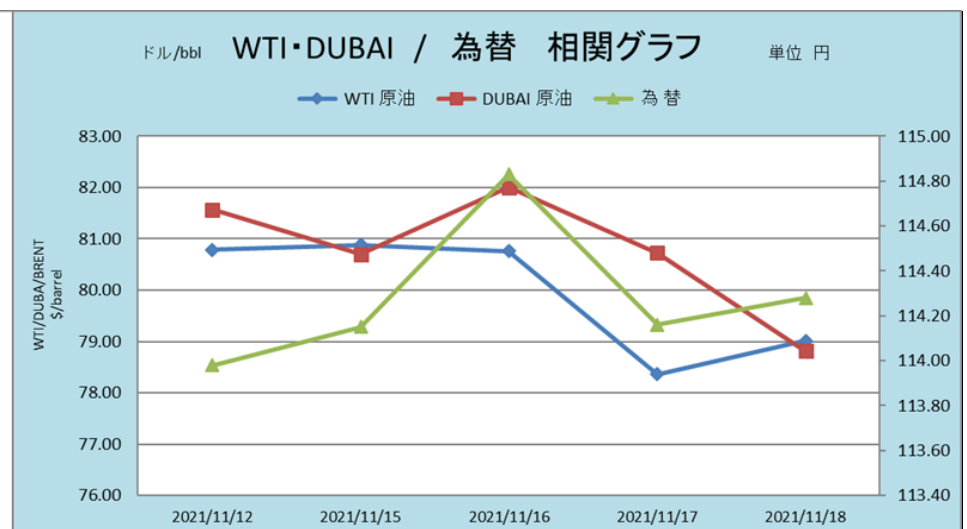
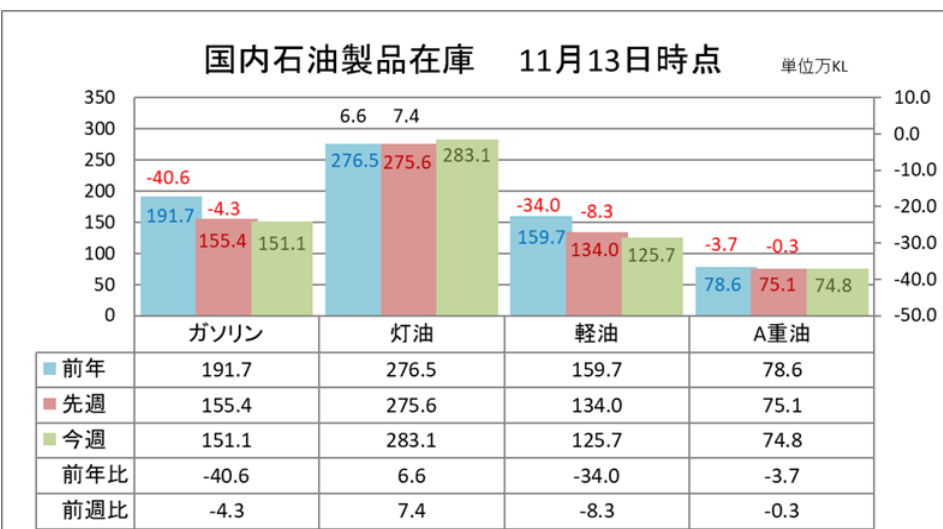
イデックスオイルレポート ~For a week~

2021/11/19作成 (株)新出光

【概況】<上値重くも、安値は買われレンジ内推移>

- 12日、石油輸出国機構(OPEC)が前日公表した月報では、今年第4四半期の需要見通しが下方修正され、バイデン米政権が物価高の主因になっているエネルギーコストの抑制のため戦略石油備蓄(SPR)を追加放出するとの観測が広がっていることも上値を抑えました。
- 15日、安値拾いや米製造業指標の改善を手掛かりとした買い戻しやロイター通信の暫定版調査によると、米原油在庫は前週比160万バレル増と、4週連続で積み増しとなる一方、ガソリン在庫は70万バレル減、ディスティレート(留出油)在庫は160万バレル減と見込まれていることが売り買いを交錯させました。
- 16日、今後のエネルギー需給動向に関する見方が割れる中、方向感に欠ける取引となり、小幅に下落しました。
- 17日、国際エネルギー機関(IEA)が公表した月報で、世界の石油需要は堅調なものの、欧州での新型コロナウイルス感染再拡大や工業活動の脆弱さ、油価の高騰が妨げになるとして、2021年と2022年の伸び予測をほぼ据え置きました。また米エネルギー情報局(EIA)が午前発表した週報によると、原油在庫は210万バレル減少しており、市場予想の140万バレル増に反し、4週ぶりの取り崩しとなったようです。石油製品在庫もガソリンが70万バレル減、ディスティレート(留出油)が80万バレル減と、予想通り減少したとの発表を受け、買い戻しの動きが見られるものの、引き続き上値は重い状況です。
- 18日、前日に6週間ぶりの安値を付けたことから安値拾いの買いも入りやすかったことや、11月のフィラデルフィア連銀景況指数が上昇し、市場予想を上回ったことも原油の支援材料となっています。

11月19日 17:00現在 WTI原油 79.13ドル 為替 1ドル 114.34円



	次回元売変動予測		【製品卸価格】<仕切りほぼ動きなく、市況ジリ下げ>
	11/25~	元売変動予測	
ガソリン	→	-0.5~±0	<p>《今週》今週の元売り仕切り改定は三社ともに「±0円」の価格据え置きでした。しかし、コスト計算が先週より合わなくなっていることから+0.5円の値上げも視野に入れ、改定前にオーダーを入れていた買い手も少なからずいたようです。今月は先月と比較し原油の動きが小幅なため仕入れは変動しないまま、市況だけが少しずつ下がるといった様子が多く見受けられます。</p> <p>《11月20日以降》次回の元売り改定は、現状の原油コストで「-0.5~±0円」の小幅下げ予測です。今回スライド改定でしたが、その後原油相場が下落したために、先物玉や油槽所の在庫玉による先行した値下げが見られます。これまで原油の動きも小幅であったために月間リンク玉での販売はコスト上、値下げが厳しい状況となっているようですが、原油下落により週末での販売に勢いづいた印象が窺えます。次回の改定は原油が少し戻していることを考慮すると小幅の下げで予測していますが、月内での仕切りの値上げはほぼ無いとの見方から、枠消化のため月間リンク玉を中心に値下げして対応しているディーラーが多く見受けられました。特に灯油の出荷において苦戦している声が多く聞こえています。</p>
灯油	→	-0.5~±0	
軽油	→	-0.5~±0	
A重油	→	-0.5~±0	
LSA	→	-0.5~±0	

※現段階の原油コストによる予想です。

【次世代エネルギー】<再エネ由来の水素エネルギーの制御システム実証実験>

(株)IHIは北九州にて市、県、その他企業とともに、響灘地区や近接する東田地区にて、自治体新電力による地域の再エネを活用したCO2フリー水素の製造・供給の実証事業に取り組んでおり、今回IHIは太陽光・風力・ごみ発電を含む複数の再エネを同時制御する「水電解活用型エネルギーマネジメントシステム」を活用して、水素を製造する実証実験を開始します。再エネの導入が進む九州では電力の需給バランスを維持するため、地域で余剰となった再エネを出力制御する状況が発生しており、このような再エネを有効利用することでCO2フリー水素の製造・供給の低コスト化を実現する可能性を有しており、九州での再エネ事業に注目が集まっています。

[出典]

① https://www.ihico.jp/ihico/all_news/2021/resources_energy_environment/1197589_3345.html